

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	身に付けた知識・技能を活用し、よく考えやりぬく力や、学力のさらなる向上を図る。
環境作り		児童が目的意識と相手意識を明確にした活動をするための学習環境を整備する。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学年		- 基本的な学習習慣を身に付けられるようにする。 - 学習に意欲的に取り組めるようにする。 - 話をよく聞いて行動できるようにする。	- 継続的な言葉かけ - 掲示の活用
2 学年		- 学習規律を整える。 - 友達との交流を通じて学習の理解を深めることができるようにする。 - 既習の漢字を使って、文章を書くことができるようにする。	- スモールステップでの取組 - 交流の場の設定 - 文を作る活動の定期的な実施 - 相手意識、目的意識をもたせるための授業計画
3 学年	- 新宿区学力定着度調査の結果、国語は区平均を下回っている。 - 国語「話すこと・聞くこと」の領域では、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道立て考えることが課題である。 - 新宿区学力定着度調査の結果、算数は区の平均は上回っているが個人差が大きい。	- 話の中身が聞き取れるように聞く力を育てる。 - 相手が何を伝えたいのかに気を付けて話を聞くことができるようにする。 - 九九の定着を図る。	- 読書活動の充実 - 日常的にスピーチ - 計算の反復練習 - 九九の練習 - デジタルドリルの積極的な活用
4 学年	- 新宿区学力定着度調査の結果、国語、算数ともに、区平均を上回っている。 - 説明文や物語文の要点をつかむ力や、段落ごとの内容把握に課題がある。 - 式の意味理解や、文章問題での計算の活用に差がある。 - わり算や時刻の計算などでつまずきが見られる。 - 一人ひとりの学びの定着に個人差が見られる。	- 段落ごとの要点を整理し、内容の構造をとらえて読む力を育てる。 - 場面を具体的に想像しながら自分の考えを表現できる力を伸ばす。 - 数の関係を図や式でとらえ、筋道立てて考える力を高める。 - 個に応じた支援と振り返りで確かな理解につなげる。	- 説明文・物語文の場面ごとの要約や読み返しの指導 - デジタルドリルを活用し、学習履歴から個別課題を設定 - 図や図式を使った問題解決の場面づくり - 時刻やわり算の学びに対し、具体物や場面設定で理解を支援 - ノート・テスト・発言・デジタルドリルから理解度を見取り、個別指導の充実を図る
5 学年	新宿区学力定着度調査の結果、国語、算数ともに、区平均を上回っている。	- 文章構成を理解し、内容を正確に読み取る力の向上を図る。 - 自分の考えをまとめる力を高められるようにする。	- 読書活動の充実 - 取り組ませる応用問題の内容の精選と、機会の確保

年	・特に、国語の話すこと・聞くこと、算数の「測定」についてよく理解している。 ・算数の応用問題に対しての理解が不十分である部分があった。応用力の向上が必要である。	- うにする。 ・算数では、自分の考えを説明する力を伸ばしていく。 ・算数では、応用問題にも取り組む機会を増やしていくことで、応用する力を伸ばしていく。	・意見交流の場の設定 ・単元を通した振り返りカードの活用
6 学 年	・新宿区学力定着度調査の結果、国語、算数ともに区平均を上回っている。 ・特に、国語の「書くこと」「読むこと」、算数の「測定」についてよく理解している。 ・算数では、既習事項を応用する力もしっかりと身に付いている。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の分野にやや苦手意識が見られた。	・相手意識、話す目的などを明確にして意見交流する時間をとったり、発表する時間を積極的にとったりすることで、話す力・聞く力を伸ばしていく。 ・伝えたい内容を整理し、言葉を選び順序立てて話すことができるようにする。 ・算数では、自分の考えを説明する力を伸ばしていく。 ・算数では、引き続き応用問題にも取り組む機会を確保することで、応用力を伸ばしていく。	・相手意識・目的意識をしっかりと児童がもてるような、授業計画 ・ペアやグループで自分の考えを説明する時間の充実 ・自分の考えだけでなく、友達の考えを説明する機会の確保 ・自己調整力向上のための自由進度学習の実施